

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
 社会福祉法人 松樹会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2190
 URL <http://midori.jp.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

編集責任者：理事長 中村 猛
 編集：季刊誌発行委員会

第10号所感

理事長 中村 猛



11月に入り紅葉の便りもちらほら聞かれ、秋もたけなわの良いシーズンを迎えております。

国政は福田内閣が誕生しましたが、ねじれ国会の政情不安定が続き、我々の枚方は竹内市長のもと新たな市政のスタートを切りました。私ども医療福祉分野ではそろそろ来年度の

診療報酬及び介護保険改定の動向が注目されております。

うち続く医療抑制が医療機関を疲弊し、本年度上半期でもう昨年度を上回る病院倒産件数が発生しており、地方の僻地は言うに及ばず、都会でも医療崩壊が起こっているのは周知の通りです。そして医師・看護師等医療スタッフの不足は深刻で若い世代の継承が困難で各科により又急性・慢性期等業務部門によるスタッフの偏在が生じ、医療供給体制が歪曲し劣化しております。何とか医療福祉の社会保障部門の安定を計り、良質のサービスの提供を行っていくか予断を許せない段階と思われまふ。我々両法人スタッフも業務改善を含めたモチベーションの向上に全力を挙げ、良き社会人としてノウハウの新たな開発に引き続き取り組んでまいります。振り返りますと今年上半期はまさにスタッフ採用、定着、育成等の人事関連の大嵐が吹き荒れ、今その嵐を乗り越え、その貴重な経験を生かして組織の課題に

取り組んでいる所であります。

さて少し話題をかえ、来年に向かいこれから冬の到来で私共の数ある同好会のひとつ、スキークラブが活動を始めます。毎年のことながら、今シーズンの計画を考えるのはこの上ない楽しみです。スキー板、靴等のわくわくする準備、まっ白なパウダースノーに踏み入れ“きしきし”と鳴るスキー板、刺すような冷気の銀世界の山頂ヘリフトで登るその恍惚感、みわたす限りのゲレンデを縦横にすべる壮快感、なじみの宿の風呂で疲れを癒し、皆で摂る晚餐の楽しさ、疲れて大部屋で雑魚寝の眠りの心地良さ、それ等がこのお知らせの召集をかける時、どっと頭をよぎってまいります。

小生この原稿の前半を書くのに湿っぽい遅々とした筆の運びでしたが、後半はびっくりする程滑らかにスピーディな運びになりました。

さあ、元気を出して今回のみどりの風も我々両法人の活動報告を主にお伝えする事になりますが、温かい御叱声、御支援をよろしくお願い申し上げます。



厚生労働省サテライト老人保健施設構想と

サテライトなごみの里について — なごみの里 事務長 山中 昭 男



イメージパース

生労働省は平成17年10月12日に「社会保障審議会介護給付費分科会」で、地域の中でより在宅に近い環境の下で在宅復帰を目指す定員29人以下の「小規模介護老人保健施設」についての議論がなされた。

本体老健と密接な連携を確保しつつ別の場所で運営される小規模

老人保健施設をサテライト型と定めたが、平成18年4月創設以降、現在までに指定申請は行われていません。

この度、当法人がこの構想に則って枚方市長尾地区に全国初のサテライト型老人保健施設（以下サテライト）整備希望の声を上げました。

当法人は平成11年に介護老人保健施設なごみの里を枚方市長尾北町に開設し、現在に至るまで枚方市北東部エリアで地域に根ざした介護サービスの提供を行って参りました。

昨今、枚方市でも急速な高齢化が進み年々利用希望者が増えていますが、利用希望に応えられなくなってきています。

一方、利用者の在宅復帰は余り進んでいないのが現実です。地域での要介護者が住みなれた環境で自身の意思が尊重された生活を少しでも長く続けられるよう在宅サービスの情報提供、整備を今より多く進める必要があります。

また、入所者の施設入所の長期化も問題になっており、当法人は地域のニーズに応えながら、これらの諸問題をより積極的に解決していくために、サテライト構想の実現を考えようとしています。

ユニットケアでの小規模老健で在宅復帰を主眼に置いて、安心安楽な在宅生活の継続が可能なサテライト型ではありますが、これに課せられた問題が山積しているように思われます。

ここで、当法人は今まで老人保健施設で培った経験と新たな構想に基づいた介護のあり方を組み合わせ、従来のサービスよりも、よりよいサービス提供のカタチを創りあげたいと考えております。

■ 枚方の救急よもやま話

外科医長 吉岡 宏 晃



「いや～、駄目ですわ、枚方は。」「前から、なかなか受けてもらえへんかったけど、この頃はさっぱりですわ。」これらの言葉は、この前搬送で乗り合わせた、枚方救急隊の消防士さん達の実際の言葉です。私が神戸市北区の病院から中村病院に赴任させて頂いてから4年目になりますが、私の気持ちも同感です。以前の病院も規模が小さかったので、夜間の緊急手術等がままならず、重症患者様を基

幹病院に搬送せざるをえないこともありました。そんな時に、心強かったのは、ポートアイランドにある神戸市立中央市民病院の存在で、電話で病状を説明すると、ほとんどの場合快く受け入れてくださいました。救急のサイレンを響かせながら、北区から六甲山の長いトンネルを抜け、患者様を搬送した事を思い出します。到着しますと、担当医と救急専門の看護師さん達がきちんと対応してくださり、時には労いの言葉まで頂き恐縮したものでした。

枚方に来てからは、当院で処置困難な患者様の受け入れ先を探すのに、困ることが少なからずあります。電話で救急搬送をお願いしても、担当医師にさえつながらない場合や、時には、研修を終わって間もないような若い声の医師に、嫌味を言われるような場合さえあります。私なりに枚方市の救急医療体制が何故このような、「さみしい」状況なのか考えてみました。一つには大学医局の医師不足等で、基幹病院から医師が多数引き上げてしまったこと。また、中心となるべき市の公的病院でも、夜間の救急医療をアルバイトの医師に依存されているために、リスクを負いにくいこと。そして、病院の方針として救急を積極的に受け入れると表明されておられても、その意向が末端の医師まで徹底しておらず、当直

医の裁量に依存してしまっている状況もあると思います。そして最後に、府内4位の都市でありながら、京阪南のベッドタウン的な土地柄のせいか、医療に関しても特に市内で対処できなくても、大阪や京都に行けばいいというような甘い気持ちもあるのかも知れません。冒頭の言葉も、この前市内の基幹病院群で受け入れていただけず、やむなく宇治市の救急病院に患者様を搬送した帰りに聞いた言葉です。

それでは、中村病院の救急体制はどうなのでしょう。外傷や一般外科系統の二次救急は、私をはじめとする一般外科で、比較的積極的に受け入れさせていただいていると思います。呼吸器疾患は、胸部外科専門医の傍島副院長が担当いたしております。内科系では循環器は川上医長、消化器内科は澤村医長、糖尿病では高橋医長、そして眼科は山田医長が担当いたしております。何分、常勤医師の数が少ないため、重症患者様や病棟業務等が重なりますと、受け入れ困難な場合も時には出てくるとは思いますが、かかりつけや周辺地域の患者様はできる限り受け入れるべく努力いたしております。また現在は、整形や脳外科の常勤医がおりませず、それらの分野に関しての救急対応は困難な面もありますが、これからの中村新病院創設に向けて、医療法人全体としてそれらの方面も徐々に充実していければと期待しております。

最後に、枚方市には大学病院、3つの公的病院、そして中村病院を始めとする私立病院群があり、市全体としての医療レベルは決して低くないはず。これらの病院が力を合わせ連携を深めれば、枚方市内で起こった事故や救急医療は、市内で完結的に対処できるようになれるはず。そうなれますように、微力ながら日々努力していきますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

■ 作業療法室だより

作業療法室 若松 怜 子

当病院における作業療法は平成15年5月より開設の準備を開始し、同年7月より作業療法士2人体制にて本格的に始動しました。現在は作業療法士3人、助手2人体制で実施しています。

当病院の作業療法では主に脳血管障害、整形疾患、認知症などにより、日常生活を送ることが困難になった患者様を対象としています。そのような患者様が疾患のために失った能力が回復するよう、また障害が残存しても生活がより良いものになるよう支援します。

まず、患者様の日常生活における動作の能力、身体機能や精神機能などの評価を行います。治療には食事、更衣、排泄などの日常生活における身の回り動作の練習、筋力を強くしたり、関節の動きを良くする練習、指の細かい動きの練習などがあります。どうしてもでき

ない動作がある場合、自助具と呼ばれる道具が役立ちます。手が不自由でお箸が上手く使えない場合は開閉しやすい箸や握りやすいスプーンを個々の患者様の状態に合わせて紹介します。

自分の身体が思うように動かなくなると、行動範囲が狭くなったり趣味をあきらめてしまったりしがちです。作業療法では創作活動を通じて新しい趣味を獲得し、日常生活で楽しみをもって過ごしていただけるよう、道具や材料も揃えています。

今後も患者様やご家族のお役に立てるよう頑張っていきますのでよろしく願いいたします。



中村記念病院

■ 大阪病院学会の発表にあたって

地域医療相談室 課長代理 伊内 康 宏



平成19年11月11日(日)に行われた第14回大阪病院学会(グランキューブ大阪)で、演題発表を行いました。演題は、「回復期リハビリテーション病院の医療ソーシャルワーカー(MSW)による在宅支援について」です。MSWは医療機関と福祉・介護機関等との橋渡しの役割を担っております。その中で患者さまの在宅復帰を検討した際、段差が多いなどの住居環境から、入院中に転居が必要な患者さまがおります。今回は、事例を通じて、回復期リハビリテーション病院を退院するまでのMSW支援について、整理を行い発表いたしました。病院スタッフが患者さまの生活の基盤となる住居に積極的に関わることで、入院療養から自宅生活へスムーズに移行できることを、支援を通じ実感しています。当院では、その有効な手法をひとまずまとめ、ありがたいことに学会にて「優秀賞」を受賞いたしました。これを励みに、引き続いて吟味、検討していきたいと思っております。

「医療と福祉の連携を！」など最近良く耳にするようになりました。私たちMSWはその連携の要となるよう、これまで以上に地域に赴き、患者さまがスムーズに生活者となられるよう援助・支援を展開することが大切と考えております。



全国介護老人保健施設 愛知大会に参加して

介護課 課長 山本 雅章



今年、愛知で全国老人保健施設大会が開催されました。

なごみの里からは、「身体拘束廃止に向けて 第1報」というテーマで研究発表を行いました。

内容は「今年に入り、職員間で身体拘束が多いという意見があり、その廃止に向けての方法等を検討しました。」

なごみの里は認知症専門棟を有する施設

ですので、一筋縄ではいかず試行錯誤の上、職員が知恵を絞り奮闘しました。

施設長をはじめ関係職員が委員会に参加し、ある一定の成果を出すことができましたが、身体拘束はゼロになったわけではありません。

この廃止をする課題に取り組むことによりいろいろな問題が浮かび上がってきました。

その一つひとつを検討、改善し、施設全体のサービスの向上に

努めて行きたい」といった内容で発表しました。

発表会場の座長からも「施設全体で取り組んでいる様子が良くわかる発表で、参考になる施設も多いのではないかと」のコメントを頂きました。

この取り組みはこれで終わりではなく、継続して行きたいと思います。

今回の大会では、身体拘束廃止に向けての発表と共に、他の施設の発表を聞き、大きな刺激を受けました。また今回、発表に同行した職員も刺激を受けたと思います。

来年度の大会は、8月に京都で開催されます。なごみの里からも身体拘束廃止に向けての続報と、今回の大会に参加した職員がなごみの里のサービス向上に取り組み、研究し発表していきたいと思っています。



なごみの里農園活動だより

栄養課 課長 樋口 朋宏

なごみの里農園は利用者様の四季の草花、農作物に触れ合う機会を持つために、またりハビリの一環として、平成14年になごみの里から徒歩2分の所に設けられました。この農園には専属で世話をする農園担当が勤務しており、水やり、草引き、種うえなどを行い、農園が良い状態で保 持されるよう日々がんばっています。

その、なごみの里農園で10月24日に毎年恒例のサツマイモ収穫祭が行われました。岡田施設長の挨拶のあと、なごみの里、ケアハウスつくしんぼ長尾からの利用者、職員合わせて総勢70余名で一齐に芋を掘りました。農園担当者曰く去年の芋よりの少し小さいとの事でしたが、なかなかの大物も埋まっており、利用者様、職員ともども歓声を上げながら芋ほりを楽しみ、30分ほどで芋ほりが終了しまして、お茶で一服しました。咲き乱れるコスモスを職員が摘んで手渡すとバツと笑顔に成られる利用者様、昔芋ほりをした時の話を聞かせてくれる利用者様、秋晴れの空の下利用者様、職員も一緒になって心地よい時間を過ごしました。

その後、なごみの里へ帰ってのおやつは前日に少し掘っておいたサツマイモ芋を使った蒸しパンでした。しばらくの間はなごみの里の

献立にサツマイモが続くと思いますが、それは今しか味わえない秋の味として楽しんで頂きたいと思っています。

秋が終われば冬がやってきます、次の収穫は白菜や大根などです。農園の材料を使った食事や世話すること、収穫する事を通して四季を感じて頂けたらと引き続き職員一同がんばっていききたいと思います。



なごみ農園担当 西村



サツマイモ収穫祭

在宅部門

第2回 枚方市地域包括支援センターみどり 意見交換会（懇親会）

所長 榎野 仁

去る10月26日（金）に、包括みどり別室にて地域の16事業所19名の介護支援専門員（ケアマネジャー）のご参加を得て、第2回意見交換会を開催させていただきました。初めに、地域包括支援センターの概要説明、引き続き18年度の事業報告を包括みどり発行の年報誌により具体的な数字に基づく実績報告をさせていただきました。

※18年度の実績（報告）

1. 要支援者（I・II）の年齢および居住地分布
2. 要支援者（I・II）のサービス計画作成分類
3. 要支援者（I・II）の介護度の変遷
4. 要支援者（I・II）のサービス提供状況
5. 要支援者（I・II）の介護請求件数と介護報酬請求状況

※、三職種（看護師、社会福祉士、介護支援専門員）による活動報告と今後の課題について協議を行ないました。

1. 保健師としての関わりと特定高齢者のマネジメントおよび認知症サポートについて
 2. 社会福祉士より、困難事例紹介と高齢者虐待について
 3. 介護支援専門員からは、今後の介護予防のあり方について
- さらに、事前に頂いていた各事業所からのご質問にお答えさせていただきました。

※ご質問内容（概要）

1. 医療との連携について（情報交換）
2. 困難事例への関わり方
3. 自立に繋がったケース事例や生活中心型のプラン作りのあり方

その後、ケーキバイキングなど茶菓を頬張りながら、今後の介護保険制度や介護予防、高齢者介護のあり方等、和やかな雰囲気の中皆さん真剣な面持ちで、活発な意見交換を行ない、午後3時半過ぎ閉会としました。

次回は介護サービスに関わる直接処遇職員との意見交換会の開催を予定しております。



■ 法人各施設間連携活動の取り組みについて — いこいの里 施設長代理 岡崎 基

松樹会が発足してから7年が経ち、今日では3施設、4事業所を数える規模となりました。事業所が増える中、利用者様に良いサービスを提供するためにも情報の共有を図ることが重要となるわけですが、松樹会内におきましては、定期的な連絡会を設け、それぞれの施設・事業所で取り組んでいる活動や施設行事等を報告、共有しあうことで、少しでもご入居者、ご利用者が施設の枠をこえて参加できる行事を増やしていこうと取り組んでおります。10月に行われました関西大学による「落語研究会」の演目も各施設の皆さまにも喜んでいただけたかと思えます。

本年度より連絡会も「福祉連携会議」と名称を改め、今では、毎月の施設行事の情報交換、共働のなか、ボランティアの方々の裾野を広げることに一役買ってくださるようになりました。また、行事活動以外にも、各施設・事業所で取り組んでいる活動や悩みを報告し、共有しあうことにより、自施設での活動の取り組みの改善にもなっております。最近では、前月号でもお知らせしましたが外部評価受審の結果を

受けて、取り組みを共有しあうことにより未受審施設、事業所においても同様に取り組みを共同しあい行っております。

各施設・事業所周の連携活動を行い、自施設・事業所の運営の振り返りや、利用者へのサービスの向上につなげていきたいと考えます。

福祉を行うにあたり、医療との連携の重要性は利用者様に安心、安全なサービスを提供不可欠です。安心した生活を過ごして頂くためにもこの点において、医療面においても更に連携を図り、それぞれの利用者の老後や疾病後の悩みにも答えていけるような連携に取り組んでまいりたいと思っております。



■ 「高齢者の皮膚疾患について」講演会開催

医療法人みどり会中村記念病院では毎月リハビリテーション科の勉強会を開催しており、今回はその一環として星ヶ丘厚生年金病院から加藤晴久皮膚科部長をお招きし、「高齢者の皮膚疾患について」の講演会を開催しました。

当院では高齢者の患者様が多いことから、今回のテーマは意義あるものであり、加藤先生の皮膚の老化と皮膚疾患についてや疥癬などの具体的なわかりやすいお話を聞くことができました。

他施設からも多くの方に参加いただき、100名弱の皆様が加藤先生の貴重なお話を傾けていました。

(記 中村記念病院 田村)



日 時：平成19年10月18日(木)
17:30~18:30

場 所：中村記念病院 リハビリ室

講演者：星ヶ丘厚生年金病院 皮膚科部長 加藤晴久 殿



■ 新入職員紹介

中村記念病院 事務長 田村 正博



平成19年10月1日付で、ご縁をいただき中村記念病院で働かせていただくこととなりました。全く経験のない医療現場で多少戸惑っておりましたが、素晴らしいスタッフの皆さんと共に、前任者が築き上げてこられたものを大切に、より良いものになるよう努力してまいりますので、諸先輩の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。



法人本部 人事部長代理 福林 正行

平成19年10月16日付で法人本部・人事部長代理を拝命致しました。理事長先生をはじめ多くの先生方や皆様方のご指導をいただき、医療法人みどり会及び社会福祉法人松樹会の発展に貢献を致す所存でございます。

どうかご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

■ 各施設連絡先

● 社会福祉法人 松樹会 ●

- 特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197
- 居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196
- つくしんぼ長尾 072-868-2190
- デイサービスセンター 長尾 072-868-2190
- 有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190
- つくしんぼ藤阪 072-868-2191
- たんぼぼ藤阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つくみ 072-836-8280

● 医療法人 みどり会 ●

- 中村病院 072-868-2071
- 地域医療相談室 072-868-2071
- 中村記念病院 072-868-2070
- なごみの里 072-868-2072
- 配食サービスセンター なごみ 072-868-2072
- みどり介護学院 072-868-2194
- たんぼぼ長尾 072-868-2195
- 訪問看護ステーション みどり 072-868-4392
- 訪問介護ステーション みどり 072-868-4392
- 枚方市地域包括支援センター みどり 072-845-2002

— 編集後記 —

昨今の看護師不足と介護スタッフの採用活動は法人の最優先課題となり、この3ヶ月間人事部門はもとより、トップから全部門あげての紹介運動、退職者への再アプローチ等の推進、定着化の施策を展開してきました。お陰様で初期の目標は達成しましたが、更なる両法人のCS(お客様満足)、ES(従業員満足)の向上を通じて医療福祉の体質強化に努めてまいりますので、皆様方の御指導御支援をお願い申し上げます。

季刊誌発行委員会
連絡先 ☎072-868-2071
法人本部 松田